

令和3年度 農業科（ハイテク農芸科）

教科	農業	科目	農業情報処理	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「農業情報処理」（実教出版）						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

近年、農業の各分野では、ICTやIoTによる超省力化や効率化はもちろん、一般教養としてもプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が必要不可欠となっています。そこで、2年生ではそれら情報処理の知識と技術についてさらに深く学習します。座学を通して農業におけるICTやIoTの重要性等を理解し、実技を通して情報処理の実践的な知識と技術を身に付けていきます。

2 学習の到達目標

- ・農業情報システムの進展と情報処理の意義や役割を理解する。
- ・情報リテラシと知的財産権に関する知識と技術を習得する。
- ・農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観 点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	農業情報の特徴や仕組み、システム化・サービス化による情報化に関心をもち、情報の収集・分析・発信に関する課題の探求に意欲的に取り組むとともに、その課題を科学的に捉えて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。	農業情報の特徴や仕組み、システム化・サービス化による情報化に関心をもち、諸課題の解決をめざして思考を深めている。実践的な知識と技術を基に、課題を適切に判断するとともに、科学的に捉えて合理的に解決し表現する創造的な能力を身に付けている。	農業情報の特徴や仕組み、システム化・サービス化に関する情報化の技術を身に付け、情報の収集・分析・発信するプロジェクトを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	農業情報の特徴や仕組み、システム化・サービス化に関する情報化の知識を身に付け、情報技術及び情報通信ネットワークの活用が環境保全や農林業の持続的な発展に果たす役割を理解している。
評 価 方 法	学習状況の観察 ワークファイルの記述と提出状況 レポート、発表 自己評価	学習状況の観察 ワークファイルの記述と提出状況 レポート、発表 実技定期考查の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ワークファイルの記述と提出状況 レポート、発表 実技定期考查の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ワークファイルの記述と提出状況 レポート、発表 実技定期考查の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	農業の情報化	・農業情報のシステム化・サービス化、知的財産権と情報モラルについて考える。	○			○	a: 農業と情報処理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 農業と情報処理について課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: 農業と情報処理、ソフトウェアについて実践的な知識や技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 農業と情報処理について理解し、実践的な知識を身につけている。	学習観察
	情報の基礎	・農業と情報処理について、ワードプロセッサや表計算ソフト等を用いて取り組む。 ・情報通信ネットワークについて理解する。		○	○			ワークファイルの記述と提出状況
	情報の活用	・ワードプロセッサソフト、表計算ソフト、画像・図形処理ソフト、プレゼンテーションソフトを実践的に活用することができる。	○			○		レポート 発表 実技 自己評価 相互評価 定期考査
2学期	情報システム	・情報システムの役割について理解し、その利用を考える。 ・リモートセンシングと地理情報システムの役割と意義について理解し、取得した情報を活用する。 ・農業や環境、森林情報の役割と意義、その活用技術について理解する。	○ ○ ○			○ ○ ○	a: 農業と情報処理、ソフトウェアについて興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 農業と情報処理、ソフトウェアについて課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。 c: 農業と情報処理、ソフトウェアについての技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 農業と情報処理、ソフトウェアについて理解し、実践的な知識を身につけている。	学習観察
	情報の活用	・インターネットやSNSの役割について理解する。 ・ワードプロセッサソフト、表計算ソフト、画像・図形処理ソフトをまとめて使い、実践的に情報処理を行うことができる。 ・プレゼンテーションソフトを使って実践的なプレゼンテーションを行うことができる。		○ ○ ○	○ ○ ○			ワークファイルの記述と提出状況 レポート 発表 実技 自己評価 相互評価 定期考査

3学期	農業学習と情報発信	<ul style="list-style-type: none">・農業学習とプロジェクト学習について深く理解する。・プロジェクトをまとめ、情報通信ネットワークを活用して情報発信する。	○			○	a: 農業と情報処理、環境情報システムについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	学習観察
	情報の活用	<ul style="list-style-type: none">・HTML 等を理解し、Web ページを作成することができる。・データベースの役割と意義を理解する。・ワードプロセッサソフト、表計算ソフト、画像・図形処理ソフト、プレゼンテーションソフトをまとめて使い、実践的なプレゼンテーションを行うことができる。	○	○	○	○	b: 農業と情報処理、環境情報システムについて課題を見出し、その解決に思考を深め、判断・表現する姿勢がみられる。	ワークファイルの記述と提出状況
							c: 農業と情報処理、環境情報システム、ソフトウェアについて実践的な技術を身に付け、それら技術を活用している。	レポート
							d: 農業と情報処理、環境情報システムについて理解し、実践的な知識を身につけている。	発表
								実技
								自己評価
								相互評価
								定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画 作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。